

Media Contact:

金原真奈美

pr-jp@blackmagicdesign.com

Tel: (03) 5361 6312

Micro Cinema Camera、 MegaBots の巨大ロボット対戦のウェブシリーズを撮影

2017年10月27日 - Blackmagic Design はこの日、撮影監督スコット・ソレンセン (Scott Sorensen) 氏がアメリカのロボット企業 MegaBots のウェブシリーズの撮影に Micro Cinema Camera、URSA Mini 4.6K デジタルシネマカメラを使用したことを発表した。MegaBots は最先端のロボット工学を用いて、人間が搭乗して操縦できる、約5メートルの人型ロボットの製作を行なっている。

2年前、MegaBots は日本の水道橋重工に対して巨大ロボット対戦を挑み、それを日本側が受理した。ウェブシリーズの最初のエピソードは、既存の Mk. II (マークツー) は格闘戦には向いていないため、既存のロボットに手を加えるのではなく、新しいロボットを一から製作する方が良いという決断に至るまでの経緯を映し出している。その後、ウェブシリーズでは研究開発やテストの様子を記録し、最終的に全く新しいロボット「Eagle Prime」を完成させるまでの様子を追った。シリーズのクライマックスは、MegaBot の Eagle Prime と水道橋重工の Kuratas の巨大ロボット対戦で幕を閉じた。

「MegaBots はオンラインで非常に高い人気を得ています。SFの世界に登場する巨大ロボットが現実殴り合いする姿を見たいと思う人々がたくさんいるんです。このウェブシリーズでは、このようなロボットが現実のものとなるまでの舞台裏を視聴者に垣間見てもらうことを目的としています」とソレンセン氏は語る。「シリーズの初めに会議を設けて、製作における大きな節目を列挙し、概要をまとめました。ロボットの新しいパーツが稼働し始めると、少人数のスタッフを引き連れて作業場まで行き、過程を記録しました。MegaBots のチームがロボットのシステムを作り上げるたびに、既存の概念を覆す部品の使い方が変わったんです。異常が発生したときには、どのような結果になったとしてもすべてを記録する準備ができていた必要があります。それを踏まえると、毎回360度すべてを逃すことなく撮影できるカメラの使用が必須でした。」

思いつく限りすべてのアングルから撮影するため、ソレンセン氏は6台の Micro Cinema Camera を使用した。小型なサイズ、拡張ポート、フィルムのようなルックが撮影には最適だったからだ。「Micro Cinema Camera を選んだ最大の理由は拡張ポートでした。最終的に、ロボットの操縦室にカメラをリグ付することになると分かっていたからです。カメラに拡張ポートがついていることで、RC飛行機のトランスミッターを介してカメラをリモコンでコントロールでき、ロボットからのAC電源で給電できました」と同氏。

URSA Mini 4.6K も補助的なオーバークラック用カメラとして撮影に数回登場した。撮影したテストの一部では、ジンバルにマウントした Micro Cinema Camera を操作しながら、URSA Mini 4.6K を使ってスローモーションで撮影しました」と同氏は続ける。

同シリーズのワークフローには、Blackmagic Design の MultiView 4、SmartView 4K モニター、複数の Micro Converters HDMI to SDI が使用された。対戦の最中、各ロボットには複数の Micro Cinema Camera が設置され、その映像は Micro Converters HDMI to SDI に送られた後、2台の MultiView 4 に送信された。次に MultiView 4 がワイヤレスのビデオソリューションに信号を送り、分割画面の映像をモニタ

一室にある SmartView 4K に伝送して、カメラがリモートでのトリガーに的確に反応しているか同氏が確認するために使用した。RC トランスミッターを 1 台使用して作ったカメラのリモート・トリガーシステムは、各ロボットに搭載された 2 つのレシーバーとペアが組まれた。それらのレシーバーから、1 本のサーボ延長ケーブルを各 Micro Cinema Camera の拡張ポートに接続した。各カメラは、トランスミッターの個別のスイッチに割り当てられた。

「ロボットの中のカメラをリモートでモニタリングとコントロールするシステムは手持ちのものを使って作りました。このシステムのおかげで、セットで多くの時間を節約できました。また、ロボットが殴ったり、ぶつかったりする様子を余すところなくカメラが撮影できていることを確認でき、安心して作業を進められました。本当にうまく機能しました」と同氏。

「Micro Cinema Camera はとても小さいので、操縦室の狭い空間に設置するのは簡単でした。Eagle Prime の実験中、カメラを C スタンドと Magic Arm、モーションコントロール・スライダー、ジンバル、ジブにマウントして撮影しました。

同氏は Micro Cinema Camera の耐久性についてもコメントしている。「あるエピソードを撮影中、約 210 リットルのドラム缶をロボットが投げられるか実験したのですが、運が悪いことに、モーションコントロール・スライダーに取り付けた Micro Cinema Camera をドラム缶が直撃したんです。レンズが見事なほどに吹っ飛びましたが、スライダーはわずかなダメージを受けただけで、カメラ自体は無傷で済みました。この小さなカメラの耐久性には本当に驚かされました。」と同氏は締めくくった。

フォト

Micro Cinema Camera、URSA Mini 4.6K、MultiView 4、SmartView 4K、Micro Converter HDMI to SDI および他の Blackmagic Design 製品の写真は [こちら](https://www.blackmagicdesign.com/jp/media/images)
<https://www.blackmagicdesign.com/jp/media/images>

会社概要

Blackmagic Design は、映画、ポストプロダクション、放送業界に向けて世界最先端のビデオ編集製品、デジタルフィルムカメラ、カラーコレクター、ビデオコンバーター、ビデオモニタリング、ルーター、ライブプロダクションスイッチャー、ディスクレコーダー、波形モニター、リアルタイム・フィルムスキャナーを開発している。Blackmagic Design の DeckLink キャプチャーカードは、その品質と価格で放送業界に革命をもたらした。また、エミー™ 賞を受賞した DaVinci カラーコレクション システムは、1984 年以降、テレビ、映画業界の中心となっている。Blackmagic Design は、現在も 6G-SDI、12G-SDI 製品、ステレオスコピック 3D、Ultra HD ワークフローなどの独創的な革新を続けている。世界をリードするポストプロダクションエディターやエンジニアにより設立された Blackmagic Design

は、現在アメリカ合衆国、イギリス、日本、シンガポール、そしてオーストラリアにオフィスを構えている。詳細は www.blackmagicdesign.com/jp